

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3770104267
法人名	社会福祉法人すみれ福祉会
事業所名	グループホーム花もめん
所在地	香川県高松市太田下町2020番地1 (電話)087-815-1800

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価決定日	平成20年8月12日

【情報提供票より】(20年6月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年3月31日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計 18人
職員数	10人	常勤 8人 非常勤 2人 常勤換算 10人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての3階部分
------	-------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500円	その他の経費(月額)	6,300円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	360円	昼食	500円
	夕食	520円	おやつ	0円
または1日当たり 1,380円				

(4)利用者の概要(20年6月23日 現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	69歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	馬場病院 栗林病院 高松大塚歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの運営母体は、併設の特別養護老人ホームなどを経営する社会福祉法人である。職員は、利用者の尊厳や主体性を尊重したケアに取り組んでいる。支援の特徴は、心身機能の低下予防を目的に脳トレニングやリハビリ体操、作業・言語療法などを取り入れ、レクリエーション活動も積極的に行われている。また、定期的に保育園児の訪問を受入れ、共に楽しく過ごす時間を設けたり、地元行事にも積極的に参加し、地域との交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ほぼ改善されているが、同業者との交流や日常的な外出支援、わかり易い理念づくりの課題が残っている。これらについて、さらに検討を続けサービスの質の向上につながることを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者をはじめ、職員全員で話し合い、積極的な具体的な改善に向けて取り組むなど、質の向上につなげているが、前記の課題に向けた、なお一層の改善を期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>毎回ホームの実情を報告して、理解と協力を求めている。メンバーからは、建設的で具体的な提案が出るようになってきている。市側からの行政説明は、利用者家族に好評である。なお、会議録をより詳しく記述し内容を職員全員で共有し、ケアの改善につなげるよう期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や電話などで利用者の状況を伝えている。また、電話などの問合せにも丁寧に対応している。今後、独自の「ホーム便り」を発行して、写真やメッセージを伝えていく取り組みをきたいしたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所自体が地域から孤立することなく、地域の一員として老人会、祭りなど地元の行事に参加し、交流を図っている。また、敬老会など地域の方が併設の地域交流センターを利用し交流している。地元の保育園児の定期的訪問もあり、当ホームと保育園が交互に遊びのプログラムを作成(魚釣り・じゃんけんゲーム)している。利用者は張切って、ゲームに参加するなど、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合っ、「ケア方針10カ条」を作成し、これを運営理念としている。	○	「ケア方針10カ条」をベースにして、地域密着型サービスに相応しい、わかり易く、短い文書にした理念(キャッチフレーズ)の検討を期待したい。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有されており、日常のミーティングと、月2回の勉強会、職員会で話し合い、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会でパン喰い競争、地域の行事(老人会、祭)などに参加し交流を図っている。また、地域の方が併設の地域交流センターを利用する際に交流している。さらに、地元保育園との交流(魚釣り、じゃんけんゲームなど)もあり、利用者は張り切り頑張っ交流できている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、評価で課題になった事項を、運営者、管理者、職員全員で話し合い具体的に改善した形跡が見られる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政機関や民生委員、婦人会、家族代表らが参加し、2か月に1回開催している。市の行政説明は、家族に好評で、理解を深める一助になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、余り行き来する機会を持っていない。	○	今後は、積極的に市に出向き、他のグループホームの情報を収集したり、運営上の相談なども心がけ、市と共にサービスの質の向上に取り組まれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず本人の状況を家族に伝えている。電話連絡や写真送付のほか、併設の特養通信誌を発行しているものの、独自のホーム便りは現在発行するに至っていない。	○	独自のホーム便りを発行するか、特養と共同とするなら、グループホームのスペースをもうけ、職員の異動などの報告に活用できるなど工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話し合いの場を持ったり、問い合わせの電話があった時に、丁寧に応じ、意見を聞くようになっている。	○	今後は、外部などへも、家族などが意見、不満、苦情を表すことができるような関係づくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職はなるべく抑えるようにしている。どうしても職員の男女比などの関係から内部異動した際、利用者から不安の発言などがあれば、異動職員が即顔見せするなど、安心していただく配慮ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修でのグループ討議、月2回の勉強会(委員会を含む)がある。また、外部研修では認知症の専門研修への順次参加、報告会など、内部・外部研修の体系的実施ができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、同業者との交流の機会はない。	○	ネットワークづくりには、同業者団体に入会するなど同業者との交流方法の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学を行い、雰囲気になじめるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに過ごしながらか、回想法で昔を聞いたり、畑仕事や布ぞうりの作り方などを利用者から学んでいる。お茶やお花に興味を持っている利用者の自主性を活かして、お茶会での講師や日々の生け花に取り組んでいただいたり、実際の生活の中で、学びあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に自宅で油絵を描いていた人には、道具を持ち込んでもらって制作活動を続け、作品をホーム内に掲示している。家族から利用者の性格など情報を得て、利用者に合わせてできるだけ傍に付き添うなど、利用者の思いや希望の把握に努め、実践に結びつけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に本人と家族の意見を聴取している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとに見直しを行っている。また、見直し前に変化が生じた時は、変化に応じて本人や家族と話し合い、現状に即して介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、併設している老人介護支援センターでの福祉用具の相談を受けたり、事業所のリハビリ室を利用したり、交流事業に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を聞き、かかりつけ医の受診ができる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所前に必ず、本人、家族の意向を聞きながら、医療機関と話をしている。日常生活行動の低下により、明らかに自立生活が困難な場合は、利用者、家族の意向で併設の特養施設を利用するなど、現状での各施設の機能に即した方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時、職員全員が、プライバシーの確保について気をつけるよう周知している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりに合わせたケアができるよう配慮している。職員から誘導的な声掛けはせず、自分から「○○したい」と言ってもらえるよう、自主的反応を促す声掛けをし、その人らしさが発揮できる支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設の特養の厨房で作っている。盛り付けの準備、食事の片付けは、職員と一緒にやっている。月1回はおやつ作りをしている。	○	開設当初の、栄養士から衛生的な食事をという提案と、慣れるまでの一時期という思いから配食状況が続いている。今後は、昼食からでも、利用者と職員がともに調理から関わる食事作りを開始するなど、グループホームの特徴を活かした見直しが求められる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくりときめ細かなマンツーマン入浴の特性を活かして、嫌がる利用者でも個別の話題を持ちかけ、自然な入浴に誘うなど個別配慮ができています。時間帯、湯の温度など入居者の希望を聴き、入浴支援を行っている。原則として、日曜日を除く週2回の入浴実施に対応ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自主性を基本に起床時間は、幅を持たせている。また、一人ひとりにあった役割分担ができ、生活のリズムが整っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春・秋季など気候のよい時などは、希望時に出かけたり、特養の方にも散歩に行っている。しかし、日常的に戸外に出られる外出支援は行っていない。	○	極端に暑い時は別としても、今後は、できる限り利用者の希望に応じ、気晴らしなどいつでも散歩に出かけられるような、支援体制が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームに玄関はあるが表札はなく常に施錠されている(内玄関は鍵をしていない)。現在、併設の特養玄関を使っているが、ホームからその玄関までは遠い。居室は施錠されていない。	○	グループホームの名称が分かるような明示や、ホームの玄関が玄関として機能するような改善が望まれる。また、日中玄関に鍵をかける弊害などについて話し合い、鍵をかけないケアの工夫が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者に避難訓練について事前に説明を行った後、避難集合場所を特定し、利用者全員と一緒に避難訓練を行っている。また、運営推進会議などで地域に協力を呼びかけ、非常時には、自動発信でコミュニティーセンター、自治会長宅への通報体制が整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が献立を考えている。水分は定時の水分補給(1～2時間おきに麦茶、ココア、紅茶、ジュースなど、但し、コーヒーは1日2杯までに限定)に加え、随時の水分補給の声かけなど利用者の状況に応じた介助を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは中央の吹抜から自然光を取り入れ、適度な明るさを確保している。全体的に民家風の造りにしてあり、居心地よく過ごせる。浴室は家庭浴槽を使用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けであるが、使い慣れた生活用品を持ち込んでいる。		